

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回 行田市自殺対策計画策定委員会	
開 催 日 時	令和7年1月31日（金） 開会：14時45分 ・ 閉会：16時20分	
開 催 場 所	行田市産業文化会館2階 第2会議室	
出席者(委員) 氏名	川島治、鈴木勝幸、高鳥和子、遠藤優子、小沢めぐみ、田口奏大、 新井由美子、大西航、五十嵐次雄	
欠席者(委員) 氏名	和田明、鈴木久美子	
事 務 局	(健康福祉部長) 上村浩代、(健康課長) 長島浩司 (健康福祉部副参事) 田中義久、(健康課主幹) 大崎直子 (健康課主査) 三田陽子	
会 議 内 容	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 第2次行田市自殺対策計画素案について ① 第2回委員会の意見概要 ② 第2次行田市自殺対策計画案 ③ 第2次計画重点施策事業案 (2) その他 ① 今後のスケジュールについて 4 閉会	
会 議 資 料	(資料名・概要等) ・ 自殺対策計画策定員会（第3回）次第 ・ 資料1 第2回委員会の意見概要 ・ 資料2 第2次行田市自殺対策計画（案） ・ 資料3 第2次計画重点施策事業（案） ・ 資料4 今後のスケジュール ・ 計画案差替資料 ・ ゲートキーパー研修（職員等研修）実施要領	
その他 必要事項	傍聴人3名	
会 議 録 の 確 定	確 定 年 月 日	主 宰 者 氏 名
	7 年 5 月 1 日	川 島 治

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	1 開会
	2 あいさつ【川島委員長】
	3 議題【議事進行 川島委員長】
川島委員長	議事に入ります。 本日の会議内容については、ボイスレコーダーで録音をして、正確に議事録を作成いたします。会議の公開については、個人情報基本的には含まれないので、議事を公開で行います。 会議録は私が内容を確認した上で、ホームページで公開いたします。ご了解をお願いいたします。 では、議事を進行させていただきます。議題（１）について、事務局の説明をお願いします。
事務局	【議題（１）第２次行田市自殺対策計画素案について（資料１から資料３まで）の説明】
川島委員長	ありがとうございました。ご意見のある方お願いします。
田口委員	３２ページの重点施策で、（１）、（２）、（３）、（４）とありますが、具体的な重点施策の中に（１）、（２）、（４）はありますが、（３）のアウトリーチの記載がないので確認をしたいです。
川島委員長	（３）の支援の内容が、具体的な重点施策に記載されていないのではないかという指摘です。
事務局	具体的な重点施策２の（２）地域共生社会の取組の中にアウトリーチの記載がされていますが、修正の過程で漏れてしまいましたので、追加させていただきます。
川島委員長	計画のどこに何が書いてあるか、重点施策から、目標を達成するための施策を分かりやすい体系図にして作るように検討をお願いします。
川島委員長	他市の自殺対策計画も見ましたが、計画の統計について、統計が１に対して、対策が３の割合で作成されています。行田市は統計が２に対して対策が１の割合なので、内容を検討していただきたいです。今回、居場所の統計が増えていますが、「本気で自殺をしたいと思いますか。」「自殺対策は何が必要ですか。」「ＳＯＳを出せるとは思いますか。」などアンケートで聴取した内容を記載した方がいいと思います。 例えば、居場所がない不登校の児童・生徒の統計に対して、どうするのかという対策を合わせて載せないといけないので、対策のボリュームを増やしていた

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	だきたいです。統計はバランスをとって載せていただきたいですが、図表を選ぶ基準はありますか。 市で持っている居場所関係の図表を追加いたしました。絞らせていただきます。
川島委員長	全体的に施策に資するようなグラフをつけてくれないとページ稼ぎかと思ってしまう。小学校5年生、中学2年生を基準に書いてありますが、次回には「本気で自殺したくなかったことがありますか」「今の施策で何か足りないものがありますか」という質問をして、次の対策につながるようなものを載せてくれないと、他の人が見た時に、これは何なんだろうということになってしまいます。 また、施策の体系図を書いてもらって、どの目標を達成するためにどの施策を作ったということが一目で分かるようなものをお願いできればと思います。
川島委員長	あと、何かご意見はありますか。
田口委員	重点施策事業で、NO. 6と NO. 13の「多世代のの」と「の」が2回続いています。
川島委員長	資料3についてはこれからですので、その時改めてご指摘いただければと思います。この計画（案）について、ご意見を頂戴できればと思います。
高島委員	計画（案）ですが、小中高生の自殺者が多くて大変だと思っています。地域包括支援センターなど相談を受ける方を教育していくのはいいですが、子どもが話せることが大事なので、私たちも子どもが話しやすい環境を作ることが大事かと思っています。 子どもの話を聞き、気持ちを受け止め、自殺することがないような子どもたちを作っていければいいのかなと思います。
川島委員長	ありがとうございます。施策の中に児童生徒のSOSの出し方がありますが、今は対策の動画があり先生方はそれを見ればよいような仕組みもあるので、ぜひ組み込んでいただきたいです。ゲートキーパーも子どもに関係のある民生委員さんなどに研修していただきたいですが、子どもは「大人なんか信用できない、話したくない」という人が多いです。「では、誰に話せばいいのか」と誰がSOSを受けてもらえる人なのかの施策を考えていただきたいです。そのために子どもが「こんな大人信用できないよな」と考えていることも意見聴取してもらえればと思います。
大西委員	今の副委員長のお話の付け足しで、一昨日ぐらいのヤフーニュースで拝見したことです。数字になりますが、2024年時点での自殺者数は減ってはいるものの、小中高校生に関しては増加傾向にあるということで、小学生が15名、中

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	学生は163名、高校生は349名、合わせて527名が自殺してしまっているということで、未来ある子どもたちが自殺に追い込まれるということは非常に残念なことだと思います。 行田市には適用指導教室ウイズがありますが、こちらの指導教室は、入校や在籍をするためには人数制限というのはあるのでしょうか。 定員は把握しておりませんので、後日、ご報告します。
大西委員	例えば、適応指導教室であれば、適応指導教室の先生が子どものSOSを受け止めてくれることになると思います。必ずしも学校だけが子どもの居場所じゃなく、「不登校になってもいいから、とりあえず生きてみてください。」ということをおからはお願いしたいところです。
川島委員長	ありがとうございました。実際に不登校の患者で、学校に行けなくてウイズに行っている中学生を見ているのですが、おっしゃるとおり、実際に子どもと関わっている人にぜひゲートキーパー研修を受けてほしいです。そういう計画になっていますか。
事務局	ゲートキーパーの研修は、年1回実施しています。基本的に市職員を対象にやっておりますので、ウイズの方も市職員となり、お声掛けさせていただいております。
川島委員長	対象となっているということですね。1回ということではなく、幅広く参加していただき、SOSの受け取り者になると思いますのでよろしくお願いします。
新井委員	今の意見を聞いての感想ですが、私の子どもが中学校の時、一時、不登校になりました。不登校期間の時に初めて「死んじやいたい」ということがあったので、それは今でもすごく心に残っています。学校の相談室に一緒に行こうと言っても、中学校3年生の思春期の男の子で一緒に行ってくれず、そういった相談のところには子どもは行かないものかと思います。何がきっかけで立ち直ったかという、サッカー仲間の友だちでした。もちろんゲートキーパー研修は大切だと思いますが、子どもへの意識付けもすごく重要と感じますので、取り入れられたらと感じました。
川島委員長	SOSの出し方についても教職員だけではなく、命の大切さについて子どもたちがお互いに支援することも含めてだと思います。本人だけではなくご家族も悩んでしまうので、学校を巻き込みながら、子どもたちに「こういうことがあるんだ」ということを理解してもらい、戦力になってもらえれば、お互いに助け合うことができる「命の授業」になるかと思います。そういう計画を立てて実践するときに対応していきたいです。
事務局	先ほどの適応指導教室ウイズの状況についてお話をいたします。基本的に定

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
	員という考え方はございません。近年の状況では、小中学校で令和５年度４８人、令和４年度が３７人、令和３年度が３６人という状況です。多少増えている傾向です。
川島委員長	資料では不登校は小学校３９人、中学校１３２人で、２００人近くの子どもたちが学校に行っていないということですね。行きたくないから行かないということでしょうが、一定の数をウイズでカバーしていることになりますね。
大西委員	昔の会議のことですが、第１回の策定委員会の意見概要の資料１の７に、自殺対策にあたっては、同じ立場や経験した人による相談支援の場所が必要ではないかと書かれていましたが、そのような同じ立場や経験した人による相談や支援の場所は、何か新しく作ることは考えていますか。
事務局	同じ立場の人による支援については、今後、講演会やミーティングなどを検討していければと考えております。
川島委員長	講演会に出てこない人が問題という意識はいつも市に持っていていただき、「１回やりました。」にならないようにお願いしたいです。 そこに行く人はきっと大丈夫だと思います。アクセスできない人にどうやって繋げていくかで、どこかを借りて５０人でやるようなことは、難しいと思います。エントリーしてくる方がいれば、内々で小さな場所で話してもらうなどのパッケージを考えないと、現実的には効果はあまり期待できないかと思います。よろしくお願いします。
川島委員長	五十嵐委員いかがでしょうか。
五十嵐委員	最初から、話の内容がスピーディーで、私もちょっと理解不足で、なかなか思い浮かべられないところがありました。私も自殺者数の数字をメモしてきたのですが、全体的には減少しているということでした。しかし、小中高生の自殺者数が５２７人ということで、資料２の中で「居たい」と求めている場所が記載されていますが、そういった場所が悩みを抱えてる時に居やすいと納得はしながらも、そういったところから、やはり話を聞いたりする、考え直したりすることが、大事なところじゃないかと思います。
川島委員長	ちょっと安心できるとか、おじいちゃんおばあちゃんに大々的に研修するのはどうかと思いますが、そういう情報提供は大事です。「子どもたちが悩んでいます。」「話を聞いてくれますか。」ということが伝わると街も暖かくなるような気がします。
遠藤委員	近所にウイズに通っていた子どもがいたのですが、最初は、その家にその子がいる存在さえもわからなくて、学校に行ってる様子もないし、いつからか不登校みたいでした。近所でもわからない状態でしたが、お母さんからたまたま「この

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
川島委員長	子が学校に行けないんだけど、どうしたらいいだろうね。」という相談があったので、「ウイズという通うところがあるみたいだよ」と伝えたら、それからウイズに行きだしたらしく、表情がすごく変わってきました。 最近、18歳か19歳くらいになりましたが、向こうから「おはよう」と声かけてくれますので、よかったと思います。ただ、ちょっと見ると暗い顔してることもあり、何か心にわだかまりがあるかもしれないと思うので、話せる場所があるとみんな行きやすくなるかと思います。ここで言った「心をつなぐ」ということで、生きていくことに繋がっていくのかなと思ったのが一つです。 もう一つは、統計では、高齢者の自殺数などは減ってきてる。でも、孤独死と言われてる人たちの中に、もしかすると自殺の方がいるのではないかと疑う部分もあるので、やはり生き生きサロンなどで、高齢者を外に出すというように勧めています。60歳代以上の方に対する、居場所づくりというのが結構どこでも行われてきているので、自殺を考える前にそういう場所に行ってもらいたいです。 話が出てましたが、そこに行くだけの気力のある方はいいいのですが、引っ張り出せる何かいいサークルを作ったり、サークルがあるんだということを周知したりしたいです。高齢者の自殺は減ってきてるということはいいことかと思えますので、高齢者の居場所づくりを進めていっていただけると自殺対策に繋がっていくのではと思いました。
	ありがとうございました。一人救っていただきました。また、キーワードとして高齢者の孤独死は自殺と同じじゃないかという視点は、いつも持っていなければいけません。自分で「生きたくない」というのは、自分で自分のリテラシーというか、健康に対しても諦めるということですから、ある意味、自分の命を縮めてる事になります。子どもの居場所を作るなど、いっぱい出ましたが、大人の居場所づくりをする人はそんなに多くはないわけなので、40歳代・50歳代・60歳代以上の人も高齢者・中高年ですから、そこにある程度焦点を合わせていければと思います。 子どもの自殺は、すごくセンセーショナルなのですが、ウエイト的にはそんなに多くないので、今お話ししたような高齢者にちゃんと焦点をあてる視点は大事だと思いました。
	21ページの居場所の利用状況と今後の利用希望のところで、夕ご飯を無料か安く食べることができる場所がありますが、子ども食堂を私たちふあみいゆでもやらせていただいています、昼の提供が多いイメージがあったんですけど、夜に提供されてるところがあるのでしょうか。
	子ども食堂につきましては、平日・休日で違うかもしれませんが、平日なら夕食、休日なら昼という認識であります。 子ども食堂は圧倒的に昼ではないですか。夕食の方が特別な感じもします。食事をしながらおしゃべりするというのが行田市でもあると思うので、夕食があ

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
鈴木勝委員	るのであれば、広報してあげた方がいいと思います。ありましたら、教えてください。 手探りの中で自殺対策をやっている状態で、精神科だけでは自殺の問題に答えが出ないという実情です。他部局の中で情報を集めることが大切で、川越市で行った事業ですが、情報を集めて分析していくことが重要で、一番自殺の情報を持っているのはどこかというとは実は警察、消防、救急病院で、川越の消防本部の方から川越市保健所の方に119番通報で自殺者の情報を送ってもらい、自殺手段や家族背景を分析して、結果を警察、消防、医療機関にフィードバックをやりかけました。市でも消防本部と警察との連携に取り組めば、何かしらの情報と答えが見出せるのではないのでしょうかというのが1点。 2点目は、私自身が数多くの自殺者を見まして、言葉の限界というのを感じています。何か気の利いたことを言おうとか、何か救いになることを提案してもだめでした。 先ほど、子ども食堂の話がありましたが、優しい言葉の一言よりもその時の味覚が大事で、温かいもの飲む、美味しいものを食べることで救われる事が多々あります。この県北地域は食材の宝庫なんで、さつまいもをふかしたものでも、お味噌汁1杯でも、手作りのものを提供できるということが少し違ってくるんじゃないかと思います。やはり生きることは食べることですから、食べる事は味覚に繋がります。その味わったものが自殺を思いとどめる、あるいは凝り固まった気持ちをほぐすことになるかもしれません。一つの情報として検討していただけたらと思います。 最後は、精神科業務です。インフラで何ができるかと考えると、自殺者は、鉄道の踏切に飛び込むことがありましたが、JR、私鉄とも高架にしたり、駅にホームドアをつけたことによって、衝動的に自殺する方を減らせています。東京の高島平団地から飛び降りるのも、ネットが全部貼ってあったり、降りられないようになってます。病院も窓が全開に開きません。物理的に自殺衝動を抑えることができるというもの取り込む必要があるだろうと思います。もう1点、今度のゲートキーパー研修の講師が西熊谷病院の鴻巣さんで精神保健福祉センターにいた大ベテランのケースワーカーです。私も管内に来て2年8か月になりますのが、地域を見て思うことが、昔かなり反映していた地域で、織物というか足袋で栄えて、プライドが非常に高い地域と感じます。実はこの管内の措置入院とか措置診察に上がる家庭の特徴は、行政は全然知らないのです。家族の中で障害の方を抱えてしまいます。知られると村八分になるわけではないが、知られたら嫌だと、なかなかこの声を出せないという方々がかなり多いのではないかと思います。警察から通報が入って初めて市の方も知ったという家庭は多々あります。また苦しい方々は、羽生市から伊勢崎線に乗って行くとか高崎線に乗って東京に行く。自立しているみたいだけど、つまずいた方はこの辺は住みにくいという地域特性があると思います。地方においては苦しいものを出せない方々が多いのではないのかと、この3年近く痛感しました。そういった方々に対してどうアプローチできるのか。皆様方が何十年もこの地域に生活してこられて、つまずいた方がどう復活して、どう地域で受け入れてもらえるのか、皆様方のお知恵を拝

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
川島委員長	借りたいです。煮詰まらせない、孤立させないための一つの課題ではなかろうかと思います。 自殺する方の7割が精神科に通っていますが、精神科に受診したから大丈夫ではなくて、その次どうしようかという話です。 あと、警察署の話がでましたが、この自殺対策政策パッケージでは、自殺した家に消防隊が行って、ご遺族にどうですかとお話を聞いている自治体もあります。警察とか消防とか広域な情報が集まるので、幅広く連携をして街全体で取り組んでいかないと、ここだけで話し合っただけじゃもううまくいかないと思いました。ありがとうございました。
川島委員長	私の方からお話しさせていただくと、一目で分かるように、どの目的のために何をするという体系図をつけてもらいたいです。統計と対策のバランスが悪いので、載せればいいやではなく対策に沿った統計を載せるようにしてください。 「自殺をしたいと思ったことがありますか」「市の施策で何が必要ですか」などの自殺に沿った健康アンケートはしていないですか。
事務局	自殺関連のものは載せさせていただきました。
川島委員長	次回から、自殺対策計画を作るのに、本人や家族に、どうしたらいいのかを聞くことはリアルなことなので、「どういうことが足りないのか」をアンケートで聞けば、明らかに効果があったかの指標にすることができると思います。周りから攻めていくのではなく、本人や家族に聞くことから、配慮しながら統計を取ればいいと思います。健康課では市民アンケートを取っていますか。
事務局	健康課ではなく、別の課で市民意識調査を実施し、市全体の内容が含まれています。
川島委員長	健康課として、自殺対策に必要な質問項目を考えてもらって、次回の自殺対策計画に載せられるように考えてやっていただきたいと思います。
事務局	一覧の関係ですが、資料3で説明しますが、重点施策ごとに事業を載せていますので、これを簡素化したものを計画の前方に乗せることで、すぐに見つけられるようにします。
川島委員長	私もそう思います。
事務局	図表については絞りたいと思っています。子どもの居場所づくりを指標に載せていますが、小学校区12か所ごとに1か所以上とした理由として、居場所がない理由が「近所になから、行きたいけど行けない」という理由から指標にしたことが分かるように図表を載せましたが、少し絞らせていただきます。 また、アンケートについても、施策に繋がられるようなアンケート項目を考え

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
	て、実施したいと思います。
川島委員長	ぜひ、お願いします。対策案についてはよろしいでしょうか。では、資料３の説明をお願いします。
事務局	【第２次計画重点施策事業案（資料３）について説明】
川島委員長	先程の田口委員さんの文言の訂正をお願いします。
事務局	こちらは訂正させていただきます。
川島委員長	重点政策について、そのほかは、どうでしょうか。
大西委員	一通り重点施策を見ましたが、福祉課の高齢者が中心になっていますが、福祉課には他にも障害を持った方々がいるので、高齢者の悩みや障害者の悩みなど障害福祉にも力を入れていただきたいと思います。
川島委員長	先ほどの見直しのところでも、実施内容について「担当部局と協議する機会があること」という厚労省の指導がありますが、行っていないということでもいいですか。例えば、先ほどの福祉課の意見だったら、高齢者の担当と意見交換をして、福祉課の意見を聞かないといけないと思います。福祉課のものは高齢者福祉課じゃないですね。福祉課の意見はないということでもいいでしょうか。
事務局	今回は、高齢者福祉課が主なものになっていますが、基本施策のうちの中には福祉課のものも入っています。今回は、重点施策に絞らせてもらった関係から福祉課が載っていないという状況です。
川島委員長	どうのことですか。
事務局	各所属で実施している各施策につきましては、１００件以上あるので掲載は省かせていただこうと思っております。なお、庁内で連絡会議をする時は重点施策と基本施策の各事業について協議しようと考えております。
川島委員長	その協議を各部局と行いましたか。
事務局	今回は通知でのやり取りです。
川島委員長	そうではなくて、障害の方の施策が足りないという意見があったので、重点施策に載せてなくても、障害の人に何か施策がないか協議をしては、ということです。厚生労働省で言っていたとおりではなく、協議をして丁寧に出すよう、実現できるようにしてもらいたいと思います。

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
川島委員長	私の方から、この手引きは確認シートを作成して達成度を評価ができるようなものを作りなさいと記載されています。それは、見直しの時に洗い出しをするために必要です。引き継ぎのあった時にも、これをまた新年度でやっていくために、早い段階でそういうシートにしてもらいたいと思います。例えば 1 番の地域共生社会推進課を見ると「年間を通じて実施した」では評価できません。何を何回実施したということを書いてください。 次に、その自殺対策について何をしたかですが、サポーター人数では、みんなが自殺対策の活動してくれたとは思えないので、いきいきサポーターのうち、自殺対策の事業に参加してくれた人がどのぐらいいたかを書いて評価をできるように、指標を出していかないと実施状況には値しないのではないかと思います。 3 番目の高齢者のウォーキング大会とか日帰り研修を行ったことはいいですが、自殺対策という視点で何をやったという評価ができるようにしてもらいたいんです。担当課での目標設定は評価できるようにしてもらいたいんです。どうでしょうか。
事務局	実施状況につきましては、こちらから各担当課に記載方法を伝えておりますが、実施状況が自殺に繋がるように書き加えて記載してもらおうよう連絡できればと思います
川島委員長	記載方法については、しっかりと伝えて、対応していただかないと評価に繋がらないです。
事務局	こちらに載せている、地域安心ふれあい事業やいきいき元気ポーターは自殺対策のために本来はやっていないものになりますが、住民同士の助け合いにつながるように事業をしております。それぞれの事業ごとに目標を立てておりまして、その目標に向かってそれぞれの事業が進捗していれば、それはすなわち、住民同士の助け合いにつながっているということになりますので、この事業ごとに目標がそれぞれ立っていますので、自殺対策の観点からもそれぞれの事業がどの程度進捗しているのか、目標達成しそうなのかを評価はすることは可能です。そういった観点で毎年で評価をしていきたいと考えています。
川島委員長	「自殺対策に資する活動を真剣にやってほしい」、私たちも頑張るので、ぜひ伝えていただき、重点政策ということが相手に伝わるように、「みんなでやろう」という空気を出してもらえればと思います。よろしくお願いします。資料3について、他はどうでしょうか。
遠藤委員	先ほど、障害者もこの中に入れてほしいということですが、オレンジカフェの場合は認知症カフェとなっていますが、その場に障害者等も参加することにすれば、このオレンジカフェが、障害者の参加も踏まえてやっているものと思います。
川島委員長	オレンジカフェは高齢者だけではなく、障害の方とか子どもたちがいて、子ど

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	もたちを見守りながら認知症のケアができれば、地域共生の試みとしてできると思います。ただ高齢者福祉課が窓口なので、庁内で調整してもらいたいです。 障害者や子どもが高齢者のところに集まって何をするのか、オレンジカフェの仕組みを自殺対策に使いたいという働きかけをしてもらえればと思いますがどうでしょうか？ 昨日、地域ケアフォーラムを教育文化センターみらいで開催させていただきました。その中で市内に今10カ所あるオレンジカフェの取り組み状況を紹介する場を設けまして、各オレンジカフェの特徴、開催時間、送迎支援などの特徴を話していただきました。その中で認知症やご家族の方だけではなく、地域のどなたでも来ていいですよと、アピールをしていただいたので、お子さんや障害のお持ちの方も含め、皆さんが集えるような場所にしていきたいという気持ちはオレンジカフェも一緒ですので、今後もアピールをしていきたいと思います。
川島委員長	いろんな人が集まる出会いの場なので、認知症の家族や近所の方の出会いの場でもあり、とても貴重な機会だと思うので、大変よいご指摘ありがとうございます。
川島委員長	そのほか何かご意見はありますか。
鈴木委員	新規の事業も大切とは思いますが、すでに既存の業務の中で十分自殺対策になってる部分もありますので、それもカウントしていいかと思っています。先ほど、救急病院や消防・警察から自殺の方のアウトリーチですが、例えば、生活困窮が原因だと分かれば、それを福祉課の生活保護担当につなぐとか、医療機関につなげるとかあるわけです。それも従来の業務で、いわゆる自殺対策を実際行った事業としてカウントできますので、既存の事業でも市の実績としてカウントするのも一つではなかろうかと思っています。あと、「なぜ自殺しちゃいけないのか」という根本のところを、お坊さんや牧師さん、実際に自殺をした人に関わった医師や学校の先生からお話をしてもらって、残された人はどういう気持ちになるのかを知っていただくことが大切かと思っています。最近感じますのは、母子手帳を交付する時に伝えるのが、全ての根幹になろうかと思っています。妊娠・出産して、おそらくその時期が一番聞く耳を持っていただけにいる状況だろうと思います。母子手帳を交付するときに、自殺と虐待も含めて活用できればいいのではないかと思います。
川島委員長	市の施策については、前回あまりにも多くて、今回、重点施策に絞って出してもらいました。自殺対策の視点をもって関係部署と議論の上で載せていただければと思います。ではよろしいでしょうか。
川島委員長	今後のスケジュールについて説明をお願いします。
事務局	【議題（２）その他の今後のスケジュールについて（資料４）及びゲートキーパ

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
	一研修開催の説明】
川島委員長	ゲートキーパー研修は市職員と限ってるのは会議室の定員の関係ですか。
事務局	ゲートキーパー研修につきましては、まず市の職員が「ゲートキーパーについて」を理解していただくことからと考えております。
川島委員長	市職員を優先してやるって事です。せっかくやるのなら、幅広く出たい人は出てもらってはいかがですか。幅広くやって場所がなければもっと広い場所や2回、3回に分ければと思います。次にゲートキーパー研修をやるのは1年先ですか。
事務局	来年度は幅広い対象での実施を考えています。
川島委員長	その時間軸ではなくて、やるんだったら、「会場に限りはあるけどみんな来てください」「一緒に考えましょう」とやってみたらどうでしょうか。せっかく人を呼んで時間かけてやるのだから、市職員はもちろん、最優先でやってもらえばいいと思います。それで、他の人にも来れる人は手あげや、定員を限ってでもやるのはどうでしょうか。ご検討いただけますか。
事務局	ご案内の対象者に市職員といった印象を与えてしまいましたが、職員以外も参加することが可能な研修として考えます。周知期間が短くなってしまうますが、広くご参加いただけるようにホームページや LINE 等 でご案内し、ご参加いただけるようにしていきたいと思います。
川島委員長	スケジュールの件ですが、この計画の改訂は、スケジュールを多少過ぎてもいいように思います。これだけの改訂で、時間がかかるのは仕方なく、必ずしも年度内に仕上げないといけないこともないと思います。 今回、みんなでまちづくりの「セーフティネットを作ろうよ」という考えがわかるような計画にさせていただいて、5年前はこう考えていたんだと言うことがわかるようにしていただければありがたいです。ちょっとずらしても良いものを作っていきたいと思います。ご検討ください。
川島委員長	他に何かありますか。よろしいですか。では、以上をもちまして、議事の全てを終了とさせていただきます。
事務局	4 閉会